

Mission 地域の動物たちを見守り、環境教育の場として、未来へ！

■地域の動物を見守る

ニホンライチョウ以外の動物たちについても地道な取組が行われています。取材をしたある飼育員のことを借りると「希少動物の保全はトキのような絶滅状態になってから慌てても遅い。じつは、キツネやタヌキ、カモシカなども、飼育下での繁殖技術が確立されているとは言い難い。海外で自国の動物を大切にしているように、日本でも在来動物の飼育繁殖技術にもっと力を入れて研究するべきではないか」と。

須坂市立動物園では、国の天然記念物にも指定されるイヌワシ (*Aquila chrysaetos*) の生息域外保全を視野に入れて施設の整備が進められています。これまで、秋田県や石川県で繁殖成功の事例があるそうですが、大型猛禽ゆえに広いケージや適切なレイアウトが成功の鍵を握るそうです。

また、茶臼山動物園では、長野県希少野生動物植物保護条例で指定される希少魚類やサン



将来の繁殖が期待される
須坂市動物園のイヌワシ

ショウウオの飼育と繁殖にも挑戦しています。魚類では茶臼山動物園周辺のため池に生き残り外来魚の脅威で数を減らしているシナイモツゴ (*Pseudorasbora pumila pumila*) をため池の改修事業にあわせて園内の水槽に保護し、産卵基質の投入などの工夫で飼育下での世代交代と個体数の維持に成功しています。サンショウウオでは、飛騨山脈に固有で県内では白馬村と小谷村にのみ生息するハクバサンショウウオ (*Hynobius hidamontanus*) の飼育繁殖に成功し、2014年に日本動物園水族館協会から繁殖賞を受けています(写真)。現在は、県南部に生息する赤石山脈固有種のアカイシサンショウウオ (*Hynobius katoi*) の繁殖にも取り組んでいます。



ハクバサンショウウオ繁殖賞の盾を持つ茶臼山動物園の高田孝慈さん



■園内外に広がる活動

動物園には今日もたくさん子どもたちがやってきます。従来は幼稚園や小学校の遠足の目的地というイメージが強かったのですが、最近では中学校～大



茶臼山動物園で開催された
春の動物園祭り(2015年4月)

学生の職場研修としても多くの若者を受け入れているそうです。動物園側でも、ナイトズー(夜間の動物園公開)、動物

園祭り(様々な市民団体との交流)など、趣向を変えたイベントを企画して多様な世代に動物愛護や動物保全の大切さを伝えようとしています。

活動は園外へも広がりを見せています。例えば、茶臼山動物園では、2008年国際カエル年と、その年に世界的に流行したカエルツボカビ病をきっかけに、長野市の天然記念物に指定されている皆神山のクロサンショウウオの調査活動を始めました。呼びかけに応じたカエルサポーターは100名に達し、いまでも繁殖池の卵塊調査や池の清掃、さらに田んぼでのカエル観察会やお米作りなど楽しく活動を継続させています。



長野市松代・皆神山のクロサンショウウオ産卵調査(2015年3月)